

平成29年度

佐倉市議会 意見交換会

報告書

平成29年11月18日（土）

佐倉市役所議会棟

〔 開催概要 〕

○テーマ 『観光振興』
副題 「佐倉を観光で盛り上げるには」

○日時 平成29年11月18日（土） 午前10時～正午

○会場 佐倉市役所 議会棟
●全体会議：全員協議会室
●グループ会議：第二委員会室、第三委員会室、第四委員会室

○開催内容（会議次第）

- 1 開会
- 2 全体会議
 - (1) 主催者あいさつ 佐倉市議会副議長 森野 正
 - (2) 開催趣旨の説明 広報公聴委員会委員長 石渡 康郎
 - (3) 市の概況などの説明 広報公聴委員会副委員長 爲田 浩
- 3 意見交換（グループ会議）
- 4 閉会

○参加者 37名

- ・佐倉市観光協会 3名
- ・佐倉商工会議所 6名
- ・佐倉市観光土産品組合 3名
- ・佐倉市内宿泊施設 5名
- ・交通事業者 7名
- ・観光施設等 8名
- ・旅行代理店 5名

○出席議員 27名

議長：櫻井 道明、副議長：森野 正

議員：斎藤 明美、徳永 由美子、木崎 俊行、敷根 文裕、山本 英司、望月 圧子、
高木 大輔、平野 裕子、久野 妙子、爲田 浩、橋岡 協美、萩原 陽子、
大野 博美、伊藤 壽子、五十嵐 智美、小須田 稔、石渡 康郎、村田 穰史、
藤崎 良次、富塚 忠雄、岡村 芳樹、川名部 実、山口 文明、押尾 豊幸、
清宮 誠

〔 主な意見 〕

○背景・現状について

- ・佐倉は観光地のように観光地ではない。観光を生業としている人が少ないからである。観光に縛られなくても、他の仕事があるからやっていける豊かさがある。山間地域などは、観光しかないからやる。
- ・秋祭り、一回で200万位の出費があるが市補助は交通整理とトイレの費用のみ。
- ・秋祭り、佐倉で一番集客のあるイベント。
- ・成田や佐原の祭りはたくさんの補助金をもらって運営している。
- ・インバウンドの客が一番多かったのは2015年がピークで33,000人宿泊。
- ・観光客の流入、羽田イン羽田アウトが75%。逆に、成田イン成田アウトは25%。
- ・成田空港到着のLCC利用客は佐倉に泊まって東京や地方へ行く。
- ・佐倉滞在は宿泊利用のみ。
- ・成田から遠い佐原や銚子は一生懸命やらなければ来てくれないという思いの中で活動しているからうまくいっている。
- ・甲冑の試着体験は年間4回、特定の場所のみで行われる。地道に案内していこうとしても仕組み的に厳しさがある。
- ・JR佐倉駅及び京成佐倉駅に着いても足が止まってしまう。食事するところもない。
- ・歴博、バス移動も桜の時期の国道296号線は交通渋滞がネック。
- ・歴博、明らかに交通の便が悪い。同じ展示を東京都内でやると倍の来場者がある。
- ・歴博、来場者が少ないと年間3回の展示を減らさなければならない。
- ・歴博、来館者は、県内が6割～7割。NHKでとり上げられると増えるが、普段は佐倉市民が7割。小・中学生は無料なので実入りはないが来て見てもらえるだけで良い。
- ・町並み、建物が新旧バラバラでは難しい。観光として成り立つのか？佐倉は厳しい。
- ・堀田邸、武家屋敷、順天堂の3館、最近は欧米だけでなく、タイなどからも来客あり。
- ・歴博に行くのも美術館に行くのもアクセスが悪い。
- ・長割遺跡の地区の方々は「人がたくさん来て住環境が悪くなるのが嫌だ」とも。
- ・ホテルとしてインバウンドが減少しているように感じる。成田も大打撃を受けている。
- ・インバウンドの中国などのツアー団体客が減少しているのを肌で感じている。
- ・爆買いツアーは秋葉原。佐倉は通過点でしかない。
- ・観光客、年齢層が高い方が多い。バスを止められるところから歩くのが大変。
- ・佐倉市、予算規模は大きいですが、枝分かれしていき、最後には小さな金額しかついていない。
- ・商店会で毎月10日に金毘羅縁日を開催。継続してきた先代に感謝。スタンプ事業なども実施。イベントが功を奏している。商業者としての立場から高齢者を含めて高い評価をいただいている。商業の活性化にもつながっている。

・CATVで北総四都市江戸紀行の特集があったが、ほか3市に比べ佐倉は見劣りしていた。

- ・佐倉は成田市の新勝寺と米屋に全部持って行かれている。通過道路になっている。
- ・リピーターの個人海外旅行者は有名な観光地よりも地方で、より日本の生活が体験できるところを見にくるので、チャンスはある。

○課題・懸案について

- ・佐倉市の特性として、地域が駅ごとに分れているという難しさがある。
- ・花火大会はお金が多く出るが15万人くらいの集客。秋祭りは300万円位しかお金が出ないが集客は25～26万人。
- ・秋祭り、地域で一年間かけてお金を貯めているが、高齢化が進んでおり、5年、10年先はできない。
- ・せっかくもらったブランド、日本遺産にこの秋祭りがある。
- ・予算の優先順位を決めてもらいたい。他の地域の人へも秋祭り実施のコンセンサスを。
- ・山車会館を市に作って欲しい。山車をしまう所(格納)がなくて困っている。
- ・成田空港から近いから客は待っていれば来る、は間違い。
- ・代理店経由のお客はお金を落とさない。個人客獲得が課題。
- ・観光を団体相手に考えてはいけない。個人客に情報発信源となってもらえるような地味な対応が必要。
- ・歴博を見た後、どうするのか？そのまま帰ってしまう。時々、佐倉のまちを散策に来た方も来館するが、歴博のトイレだけ利用して帰ってしまう。
- ・日本遺産、頑張っている方々が市とリンクしていない。
- ・計画的な投資、他と比べて佐倉はできていない。観光や文化にはお金がかかるということを考えないといけない。
- ・日本遺産、資源にするためには長期的な計画が必要で、採算がとれるところまでは責任を取るしかない。
- ・日本遺産、四都市連携で誘致も施設設備の面では、食事をするところもない、駐車場も少ない、お土産屋さんもない、少し腰掛けるところもない、「食事は成田でとる」という人もいる。
- ・クラフトフェア、2日間で2万人以上集客しても続けるためにどうしてもお金が必要になる。行政、観光協会も協力を。食事するところがわかるなど商店街の方々とも連携が必要。
- ・観光振興の結果、休みの日に家の前に人がたくさんいたら私は嫌だ。外国人が増えて犯罪が起きたら、外国人を入れるなともなる。
- ・観光振興をやる意味、ゴール、それを考えないといけない。
- ・観光入り込み数なのか？交流人口なのか？目標を決めてやる必要がある。

- ・シティプロモーション、今後の見込み客として観光で一度呼び込む。目的とゴールをしっかりと決めてやる必要がある。
- ・シティプロモーション、関係人口を考えることが必要。
- ・市長が敬老会で「長嶋茂雄記念岩名球場が新しくなったから来てくれ」と言っていたが交通の便がない。どうやって行けばよいのか。
- ・定住人口が本来必要。お金を落とし、佐倉を見守る人間になる。
- ・SNSを通じて来る方々はWi-Fiが欲しい。武家屋敷などのWi-Fiは2人が同時に使えない。
- ・市民全員におもてなしの心を。佐倉の食事場所を聞かれても答えられない。ソフト面も大事。
- ・佐倉は立地は良いが食べるところがない。大型の物産店が欲しい。
- ・観光協会と商工会議所は両輪と言われていたが最近は両輪ではなくなってきた。
- ・案内板がない。トイレも駐車場もどこにあるのかわからない。歩いたりするのに休憩所や食べるところが少ない。役所にも言っているがいい反応はない。
- ・佐倉の物産は何か？農協のメンバーが参加していれば物産関係の話ができた。
- ・桜まつりに力を入れてほしい。チューリップまつりに予算が偏っている。一週間の売り上げはチューリップまつりに負けていない。
- ・外国人のマナー問題で大型ショッピング店からクレームも。異文化のマナーの違いを住民全体で受け入れる必要がある。
- ・今後のターゲットをどこに据えるか。中国・アジアの団体？個人の欧米人？国内？
- ・観光バスはどこに置くのか？佐倉に来たい人がいるのか？市が腰をあげないと民間だけでは無理。
- ・長嶋茂雄記念岩名球場はできたが市が目指す方向性がわからない。
- ・若者をどう呼び込むかも課題。高齢者にばかり目がいつている。若者が来ないとまちが死ぬ。
- ・京都から佐倉に来る人がいるか？100億円かける勇気が欲しい。
- ・歴博に寄ったら成田へ行ってしまう。団体に食事できる場所も道の駅もない。
- ・歴博、佐倉市と協定を結んだが佐倉市は縦割りなので窓口を一括するよう要望した。
- ・文化財、団体客はバス停から歩くと聞くとキャンセルになることもある。
- ・観光振興、市民の意識はどうなのか。観光でないと食べていけない危機感はない。
- ・佐倉のあるべき観光の姿とは何かを検討する必要がある。
- ・東京から人を呼びたいのか？成田から外国人を呼びたいのか？
- ・交流人口を増やしたいのか、今住んでいる人たちのまちへの愛情や定着を目指し定住人口を増やすのか、明確なシティプロモーションが必要。
- ・香取市は観光に連続性がある。2時間で回れるようなコースがある。佐倉市の場合は点在している。線になっていない。

- ・ふるさと広場で花のイベントを開催しているが、駐車場確保が課題。容量不足で大渋滞を招いている。行政で大型駐車場を確保してほしい。
- ・観光地にどうやったら行けるのかという質問。公共交通の課題。歩いていけない。交通の便が悪い。お客さんに対してのサービス、何行きのバスに乗るのかなど。
- ・歴史的な資源、ポテンシャルはあるが点から線に結びつかない。住んでいる人が気づいていない。
- ・佐倉にはシンボルがない。
- ・北総5美術館連携で文化庁の観光振興補助金を受けパンフレットと巡回バスを走らせたが期間限定の事業。継続的な行政の支援を受けながら観光振興に貢献したい。
- ・ふるさと広場へのアクセス、2次交通（鉄道駅等から目的地までの交通手段）が課題。
- ・日本遺産、江戸文化の扱い、他の自治体とどう連携し差別化するか。
- ・住みたいまちにするには、行きたいまちになることが大事。そこには気軽に足を運べる環境があり、グルメなど見るだけではなく食べる体験なども整備していく必要あり。
- ・遺産、施設は整っている。ハード面の見劣りはしない。どのようにインパクトを出すのか。
- ・佐倉の人はプライドが高く、自己満足的。秋祭りで人が足りないという声があるが、他の地域から人を呼び込むことには後ろ向き。
- ・交通不便。せっかくの施設に足を運べていない。草ぶえの丘、野鳥の森も活用できる。
- ・予算をかけても観光資源とならない施設は必要か。
- ・一番大事な発信、プロモーションにはもっとお金をかけるべき。ホームページに予算を。パンフレット作成は予算がかかる。パンフレットでインターネットに引き込む。
- ・アンデルセン公園は明確に家族をターゲットにしている。アクセスは非常に不便だが姉妹都市の関係で外国人も来園。
- ・佐倉が目的地になっていない。
- ・観光客は体験を求めている。
- ・成田空港からの最終電車が早いため、宿泊客を誘致するためバスやタクシー会社と行政を介して連携したい。
- ・フリーWi-Fi、新町エリアに入るだけで自動的に使えるようになるなど可能にしてほしい。
- ・今までは話し合いや計画書を作っても計画倒れで終わっていたが、それではすまない。

○対策及び提案等について

- ・佐倉に住む方が歴博にも来て佐倉は良いところだと思ってほしい、佐倉に住んで良かったとなってほしい、それが本当は必要ではないか？長い期間が必要だと思う。
- ・羽田空港で歴博のものを展示した方が観ていただく可能性は大きい。羽田の客をとにかく捕まえる、うまくいったら成田へ。

・アメリカのシアトルでは「安全大使」という案内役がいる。そういうことをやっても良いのでは？

・市内の道が狭く不便。金毘羅さんの時のように自家用車は郊外に。シャトルバスで移動するなど。

・たくさんの方が行く場所は、滞在する仕組みがキチンとある。なにかしたら、割引をするなど。

・シニアカレッジの卒業生、佐倉に関心を持っている。佐倉市に住もうかと。

・体験型が今注目されている、市はもっと秋祭りに関わって体験型、参加型の検討を。

・使用者を限定できるW i - F i もあるので、パスワードなどで外国人向けに限定できる。

・観光の盛り上げのために、行政の一本化が必要。観光振興担当課を新設し窓口集約を。

・飛騨高山の食事処、行列の理由はおもてなし。SNS投稿で拡散。

・京都の抹茶ラテの行列もSNS。天橋立もツアーではない。SNSの活用。佐倉の文化だけを見に来るのか。広告費がかからない広がりが必要。

・田んぼのアマガエルや地域の方のおもてなしで海外からも申し込み満員。

・中国人観光客の日本観光は世界で見ると3%、これを取り込めるのでは。

・今まで話題になっていなかった滝がアニメに出てくるとSNSで話題になり集客が増えた。城址公園の桜まつりも周知が広がれば可能性が。ポイントをしばったPRも有効では。

・羽田空港とコラボイベントを行い3日で7万人。これを使って日本の博物館を広め佐倉にも集客したい。

・プロジェクトチームをつくってチャレンジしてはどうか。

・一つのイベントに三位一体で取り組むことも必要。

・チューリップを見たら歴史のまちをみるなどの滞在時間を増やす努力が必要。

・武家屋敷に行くのに道がわからないところを逆手に取って、歴史と紐づけてストーリーを作る。スタンプラリーなど道がわからないことを楽しむ企画など。子どもと歩いて歴史を学べるまち。長年続けば少子化対策にうまく繋げていくことも可能ではないか。

・新潟県村上市、青年会議所を中心にひな人形と町屋を使って観覧イベントを始めた。最初協力が得られなかったが、おばあちゃんが歴史を語るようになったりし始め、徐々にまちを歩く人が増えてきた。アイデアと情熱で成功した。何がないからできないではない。

・佐倉市の観光の位置づけを明確にする必要がある。歴博と印旛沼に行く人は違う。

・世田谷ではSNSを育てるために市民グループをまちづくりのメイン組織にしている。

・伝統的建造物群保存地区制度、香取市が活用。佐倉市もできるのではないか。

・城下町佐倉として行政と官民が一体となるべきではないか。例えば流山。

・住みたいまちと、行ってみたいまちは、すみ分けをするべき。

・江戸から昭和期、教育文化においても先覚者が多数おり情報発信できる。地元の人が気付いて具現化する実施計画を作るべき。

- ・協議会をつくって考えてもいいのではないかな。
- ・インバウンドをターゲットにして外国のパワーブロガーの発信力を利用する。
- ・佐倉市は関東観光広域連携事業協議会に参画している。観光庁等の助成で環境整備、プロモーション等にも利用できる。
- ・海外個人旅行者の取り込みにはルート設定が大前提。
- ・川越ではインバウンドの方がお祭りを体験できる仕組みとして専用の山車を用意している。窓口としては観光協会が適当。
- ・海外旅行者が触れ感じた経験を口コミとして発信拡散してもらう。
- ・佐倉といえば長嶋茂雄さん。草ぶえの丘などに背番号3のロゴを使わせてもらうなど。
- ・新勝寺のようなメインとなるものが必要。一時的なイベントではなく、海外個人旅行者が通年立ち寄れるようなものを。寄付を募って佐倉城を作るべき。
- ・成田の米屋でお昼を食べる必要がないように大型観光バスが入れる土産物と道の駅整備も。
- ・資源の有効活用。山車はしまっておかず見せられるようにしたほうがよい。
- ・川越のように新町通りを再開発。順天堂まで歩行者天国に。
- ・京成佐倉駅とJR佐倉駅の接続が悪く、その間にある観光施設にも影響あり。本来は10分毎程度の本数があるべき。アクセスの悪さが佐倉の知名度の低さにもつながっている。行政で無料観光バスを運行できないか。
- ・体験型の観光。観光客に写真を撮って広めてもらっている。
- ・現場の声を聞くことができた。この組織を具現化し官民一体で行動する必要がある。
- ・イベント運営をみても市や運営委員会から声掛けする際はやっていただけませんかという姿勢が必要。
- ・図書館の建設についても観光というものを含めた視点から見てほしい。特区にしてはどうか。重点地域としての考え方。
- ・やるなら思い切って。酒々井町は何もないところにアウトレットを誘致して成功している。中途半端な対応では効果が期待できない。

会議風景

○全体会議



主催者あいさつ（副議長）



参加者のみなさん

○グループ別

第二委員会室



第三委員会室



第四委員会室

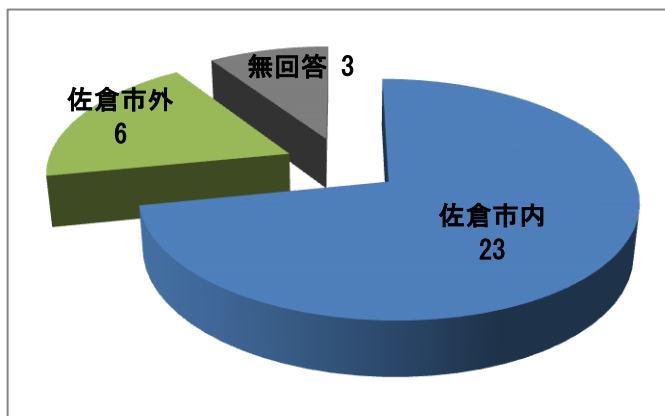


〔 参加者アンケート集計結果 〕 (参加者 37 名中 32 名から回答)

1. ご自身のことについてお聞きします。

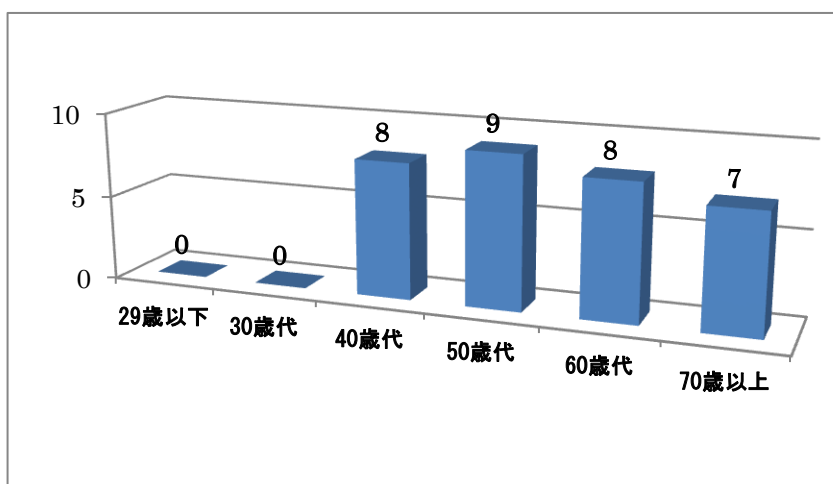
(1) 主な活動地域

佐倉市内	23
佐倉市外	6
無回答	3
計	32



(2) 年齢

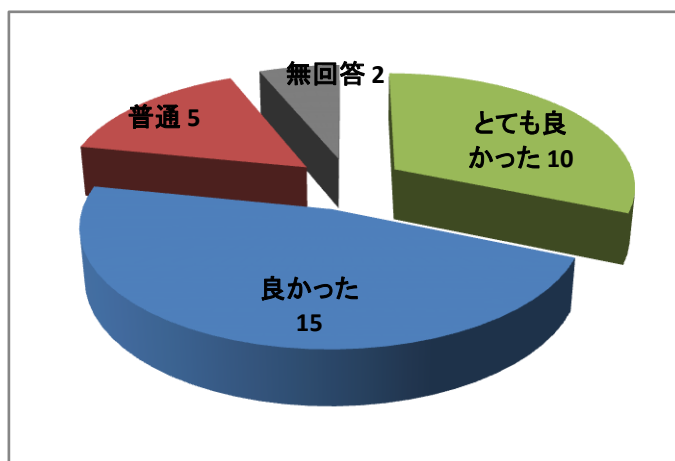
29歳以下	0
30歳代	0
40歳代	8
50歳代	9
60歳代	8
70歳以上	7
計	32



2. 意見交換会の内容についてお聞きします。

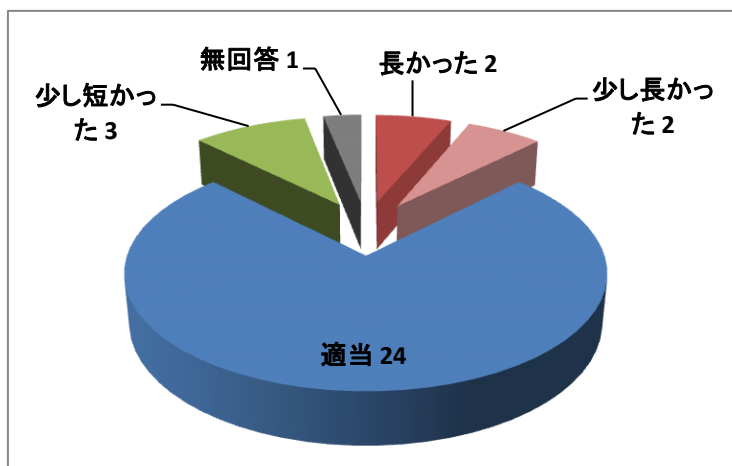
(1) 今回参加してみての印象についてお聞かせください。

とても良かった	10
良かった	15
普通	5
悪かった	0
とても悪かった	0
無回答	2
計	32



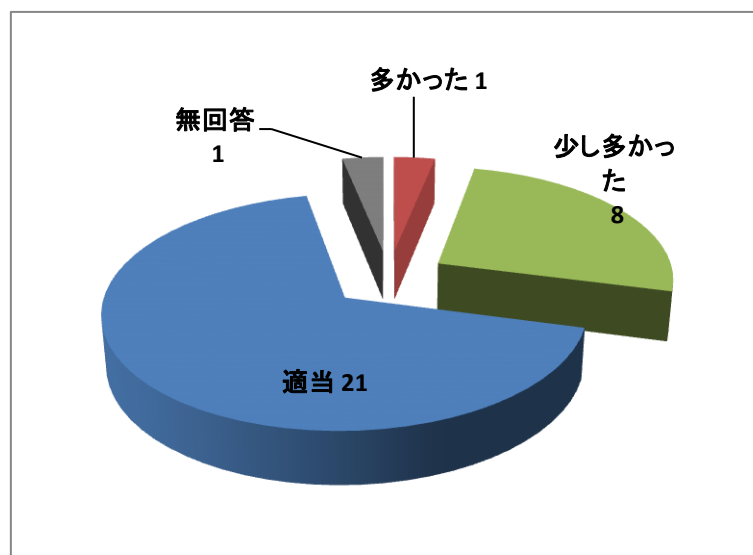
(2) 意見交換会の時間は適当でしたか。

長かった	2
少し長かった	2
適当だった	24
少し短かった	3
短かった	0
無回答	1
計	32



(3) グループ会議における人数は、意見交換するのに適当でしたか。

多かった	1
少し多かった	8
適当だった	21
少し少なかった	0
少なかった	0
無回答	1
計	32



(4) 今回の意見交換会について、ご意見を自由にお書きください。

- （市や関係者が一堂に集まるような会議を）くり返し実施するしかないでしょう。
- 定期的開催、テーマの絞り込みが必要と感じました。
- 観光を含めて、佐倉のまち全体の活性化を望みたい。
- オール佐倉でできることからお願いします。
- いろいろなご意見を拝聴でき、参考となることもたくさんありました。
- “観光振興”の面で佐倉市の抱える課題は大変多いと思った。出された課題をいつまでに誰が整理するのか。聞くだけでなく具体的な施策にどう結びつけるのか議員の側が（議会として市として）示す必要があり、それをめぐって再度議論をするような機会をつくればこのような“交換会”にも意味があると思う。
- （ソフト）行政の一本化、日本遺産認定4都市間の交流を深める、体験型の観光を創り出す、佐倉の観光資源を生かす工夫をする。（ハード）受け入れ施設不足の改善、道路が狭い、行き先表示を明確に。
- 会議の中であった目的を明確にしたほうが良いと思います。

○人数が多く意見交換会になっていない。それぞれが発表しても議員から質問がないのも問題だと思います。

○観光の活性化はまず市側で方向性を示すべき。その後、関係者を集めてはどうか。

○（市や関係者が一堂に集まるような会議を）年に数回開いていただきたい。

○ソフトではなくハード（話しをした平成2年3月に作成した観光振興基本計画）をお願いします。

○初めて参加いたしましたが、行政・民間が何に向かっているか明確になっていないので何をどうすれば良いのかわからない。というのが現状だと思います。

○テーマがあいまいで何を話したらよいかかわからない。結果と次のプランに入れてほしい。

○ビジョンを定めて三位一体になりいろいろなところとコラボして観光振興に協力したい。

○参集した方の考えていることは同じだと思います。出た意見の1つでも具現化できるようにしていただきたいと思いました。1つ1つ順序をつけて実現していただきたいと思います。

○（市や関係者が一堂に集まるような会議を）定期的に続けたらどうか。

○勉強になりました。ありがとうございました。

○このまま終わることなく新たな組織をもって実行するように願います。話し合いから実行すること！

○意見交換の内容についてはほぼ把握してるが、今後どのように佐倉市の観光について進めるのか、先導役（協議会の発足）が必要ではないか。

○課題の有り様は良く理解でき、また、納得のいく内容であった。具体的な対策に繋がることに期待します。

○行政にもできれば参加いただければより良きモノができるかと思います。当方ができることは行ってまいります。

平成29年度佐倉市議会意見交換会の開催にあたり、ご協力をお願いした皆様には、秋の各種イベントなどで多忙な時期にもかかわらず、ご参加いただきまして誠にありがとうございました。

人口減少社会を迎えるなかで、良質な住環境と行政サービスを確保していく手段として、シティセールス並びにシティプロモーションの推進は当市においても大変重要な課題となっています。

そこで、常日頃、文化・観光に関わるサービスの最前線で活躍される皆様をお招きし、それぞれが抱えている問題意識の共有や、意見の相互把握を目的に、観光振興をテーマとして意見交換会を開催いたしました。

意見交換会にご参加いただきました皆様からは、佐倉市の観光とは何か、そもそも観光が必要なのか、市が支援する事業の選択と集中、やるからには思い切った予算配分を求める、などといったご意見をいただき、この課題の大きさや重要性を再認識いたしました。

また、取り組みを前へ進めるためには市民全体の合意形成を図り、かつ関係者間の継続した連携が不可欠であることを共有いたしました。

2020年には、東京オリンピック、パラリンピックの開催が控えております。

国においても観光は、我が国の力強い経済を取り戻すための極めて重要な成長分野と位置付けており、佐倉市といたしましても、市の魅力をより一層内外に発信していく必要性が高まっております。

観光振興の推進には、市民、各種団体、事業者の皆様などのご協力が不可欠でございます。今後とも、皆様と手を携え、魅力あるまちづくりに取り組んでまいりたいと考えておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

佐倉市議会 広報公聴委員会 委員長 石渡 康郎
副委員長 爲田 浩

平成29年度 佐倉市議会 意見交換会 報告書

平成30年2月発行

発行者：佐倉市議会

編集：広報公聴委員会

委員長：石渡 康郎 副委員長：爲田 浩

委員：徳永 由美子、木崎 俊行、敷根 文裕、
山本 英司、望月 圧子、久野 妙子、
伊藤 壽子